

「発見・感動・創造」の社会科授業

Discovery, Awe, and Creativity in Social Studies Classes

赤坂 雅裕

Masahiro Akasaka

窓の外の風景を、ポォーっと見つめている子がいる。

ふてくされて机に寝そべっている子もいる。

授業がつまらないのだ。面白くないのだ。ひとつもワクワクドキドキしないのだ。

しかし、教師は、続ける。教師も、また、つらそうに。

教師よ、あきらめたのか。子どものあまりの「現実」に絶望しているのか。

いや、教師よ、その「厳しさ」のなかから、立ち上がっていただきたい。

教師の命は授業であり、授業は教師の仕事の核心である。

教師は、授業を通して、子どもたちを幸せに導いていく。

いかに現代の子が難しく、「学びから逃走」していても、決してあきらめまい。工夫をしよう。努力をしよう。絶えず、手を打ち続けよう。それが、教師である。

きっと、子どもたちは待っているのだ。感動・感涙できる授業を。学ぶ喜びを実感できる授業を。生きる力が自分に育まれていることを体感できる授業を。

教師は、子どもたちの「学びの現実」が厳しい今こそ、「感動・感涙できる授業、学ぶ喜びを実感できる授業、生きる力が自分に育まれていることを体感できる授業＝子どもたちを幸せに導く授業」を徹底的に追求しなければならない。

ここに、私が追求してきた社会科における「子どもたちを幸せに導く授業」＝「発見・感動・

創造」の社会科授業の例を示す。

1. 宮本武蔵

○願い・・・①「歴史って面白いなー。学ぶ価値があるなー」と感じてもらいたい。

②巖流島の戦いを学ぶなかで、「相手より腕力が弱くても、努力・工夫しだいで勝負に勝つことができるのだ」ということを知り、生きることへの「勇気」を掴んでほしい。

○備考・・・社会科の授業開きで実施

(起立、礼)

はい、これから1年間、みなさんの社会科の授業を担当します赤坂といいます。

では、早速ですが、ジェスチャーゲーム。

先生があるジェスチャーをしますから、何をしているのか当ててくださいね。

(はっ、ボールペンを刀に見立て、空を飛ぶつばめを切り落とすジェスチャー)

さっ、先生は何をしているんだ？

「刀をもって暴れてる」(笑)

うん、いいぞー。ただ、暴れてるんじゃない。何かを切っているんだ。

(はっ、つばめを切り落とすジェスチャーを続ける)

恥ずかしいから、早く言ってくれ。先生は何を切ってるんだ？(笑)

「木になっている柿」(笑)

う、うーん、残念。

では、次のジェスチャー。

(はっ、ボールペンを2本使い、グサッと行って生徒に切りかかるジェスチャー)

タッ。ダダッ。グサッ。おい、君、何とか言ってくれ。(笑)

「わあ！イタッ！」「うー、や、やられた！」(笑)

いいねー。君、役者だねー。あつ、ところで、先生は何のジェスチャーをしてるんだ？

「2本の刀を使って人を切っている」

うーん、そうだね。・・・はい、二刀流をやっていました。

誰のものまねかわかる？

・・・この人なんです。(宮本武蔵の肖像画を見せる)

では、最初にしてた、君たちが「木になっている柿を切っていた」というジェスチャーは、誰のものまねだったんだらう？

「佐々木小次郎」

おーう、よく知ってたね。では、柿でなくて何を切ったことになる？

「つばめ」。

そう、(ジェスチャーをしながら) 佐々木小次郎のツバメ返しなのでーす。

江戸時代の初め頃、今から400年くらい前にね、日本で一番剣が強いのは誰か決めようということで、この宮本武蔵と佐々木小次郎が戦ったのです。巖流島の戦いといいます。

(地図を描いて説明する)

佐々木小次郎ってのはね、腕力がものすごく強くて、長い刀を持ってね、あの素早いツバメを切り落とすことができるというんですよ。ツバメ返しの術といいます。

(ジェスチャーをしながら) 先生なんか、ハエでも切り落とせないよ。

長く重い刀で素早いツバメを切るんだから、よほど力が強くて運動神経がよかったですよね。

それに対する宮本武蔵は、宮本二天ともいわれてね、二刀流を生み出した人なんです。

(ジェスチャーをしながら) 運動神経はもちろんよかったですよね。力は佐々木小次郎ほど強くはなかったんでしょうね。

でも、60数回試合して負けたことなし。

ということは、この巖流島の戦いも、宮本武蔵が勝ったということなんですけど、どうして腕力の弱い武蔵の方が勝ったのでしょうか？

「わざと遅れていったから」

おっ、君、知ってるな。もう少し詳しく説明して。

「約束の時間にわざと遅れて行き、小次郎をイライラさせた」

そのとおりですね。

では、その他、腕力の弱い武蔵の方が勝ったのは何故か予想してみましょう。

まずは1人で考えて。(5分)

4人グループで予想を出し合って。・・・予想を聞かせてください。

「前日に腐った食べものをプレゼントして、小次郎のお腹を壊させていた」(笑)

「二刀流のうちの1本を弓矢のようにして投げた」(ほおー)

では、今から映画を見せます。この映画では、武蔵がどのようなことをして腕力の強い小次郎に勝ったのか見てください。

- ・小次郎の長い刀に対抗するため、木刀の長い刀をつくる。
(木刀ならそんなに重くならないので自分でも持てるし、速く振り抜ける)
- ・太陽を背にして、太陽の光が小次郎の目を突くようにした。
そして、一瞬、小次郎がクラクラとした瞬間に飛びかかった。
- ・木刀なので、手や腹を打っても決定打とは

ならない。頭を狙うしかない。
そこで、ジャンプして、上から強く振り落
として頭を一撃する作戦に。

はい、確認しましょう。武蔵はどんなことを
していましたか？（板書していく）

・・・以上のようなことをして、武蔵は小次
郎に勝ったといわれているんですが、この巖流
島の戦いから、僕たちは何が学べますか？

1人で、ノートに書いてください。（机間指
導し、優れた考えを見つけておく）

では、発表してもらいます。○○君、どうぞ。

「自分より腕力の強い相手にでも、たくさん
考えて、工夫して、作戦を立てていけば勝つこ
ともあるということ。あきらめず、考えること
が大事だということを僕は学びました」

最後に、この言葉をみてください。

（ ）人は、歴史に学び、
（ ）人は、体験に学び、
（ ）人は、それも学ばず。

（ ）には、何という言葉が入ると思います
か？

・・・実は、こうなります。

賢い人は、歴史に学び、普通の方は、体験
に学び、愚かな人は、それも学ばず。

みなさん、今日、僕たちは、巖流島の戦いから、「考えることが大事だ。努力・工夫して、作戦を立てていけば、自分より腕力の強い相手にだって勝つこともできる」ということを学びましたね。

僕たちは、賢い人でありましょう。賢い人でありましょう。

歴史に学び、自分の人生をより豊かに、より充実させていきましょう。

歴史に学び、世の中を、より豊かに、より素

晴らしいものにしていきましょう。

第1回目の授業、これで終わります。

2. 縄文人

【願い】

- ①縄文人の「すごさ」を感動的に学んでほしい。
- ②その学びの中で、「歴史を学ぶ意義」も感じてほしい。

（起立、礼）

はい、今日は縄文時代について学習します。

まずは、これ。テレビ「世界ふしぎ発見」を見ましょう。

縄文と言えば、三内丸山遺跡。

では、ここでクエスチョンです。

三内丸山遺跡から土で作られたキノコが出
土しました。

どうも、この土製のキノコはある実用的な
使い道があったようなのですが、その実用的
な使い道とは？

はい、ここ（地図を描きながら説明）、三内
丸山遺跡から、土で作られたキノコが出てきた
んです。

この土で作られたキノコ、縄文人はいったい
何のために作ったのでしょうか？

この列。

「お祭りのときの飾り」

「いやあ、お腹が空いたとき、それを見て満
足するため」(笑)

さあ、どうですかね？じゃあ、ビデオ後半を
見ましょう。

形など、非常に正確に作られています。

この正確に作られた土製キノコを調べたところ、毒のないものばかりだということ
がわかりました。

松茸や椎茸などの食べられるものばかりだったのです。

すなわち、三内丸山の縄文人は、食用キノコの見本として、この土製キノコを作っていたのです。

(おうー) うん、毒キノコをまちがって取らないように、これなら食べることができるんだぞ、と見本を作って教えたんでしょうね。(すげー)

うん、すごいなー。これで命を守ってたんだなー。知恵があるねー。

では、縄文人に関して2問目です。

ここに二つの石やりがあります。

(写真で示す。ゴツゴツした大きいのと小さいが精巧なもの)

縄文時代に使われてた石やりはどちらだと思いますか？

全員に聞きます。手を挙げてください。

縄文時代に使われてた石やりは、このゴツゴツした大きい方と思う人？(多数)

縄文時代に使われてた石やりは、この小さいが精巧なものと思う人？(3名ほど)

「ゴツゴツした大きい方」が多かったですが、どうしてそう思いましたか？

「縄文時代は、昔、昔だから、まだそんなに技術が進んでいないだろうから、そんな小さな精巧なものは作れないと思うから。このゴツゴツの方が縄文」

なるほどねー。

・・・正解は、縄文時代に使われてた石やりは、な、な、な、なんと・・・この小さい方なのです。(エー?)

はい、この大きなゴツゴツしたものは弥生時代の石やりなのです。

どうして、小さく精巧なものが縄文の石やり

で、ゴツゴツした大きなのが、縄文の後の弥生時代のものなんでしょうか？

予想をノートに書いてください。→4人グループで出し合ってください。

では、各グループの予想を聞かせてください。

・・・、はい、正解はね、人を殺すため、弥生時代は大きくなるんです。(へえー)

縄文時代は人を殺す必要がなかったから、小さい石やりでよかった。

縄文時代は、蓄えを持っていないからこそ、取られることもなく、奪いに行くこともない。戦争の経済的な動機がないのです。

宗教もまだ発達していませんから、宗教戦争もありません。

4000～5000見つまっている縄文人の死体の中で、殺されているのは10体くらい。

これは主に女さらいの罪だそうです。

とにかく、縄文時代は人と人が殺し合う戦争がなかったんですね。(へえー)

みなさん、今日は縄文人について学びましたが、我々現代人が縄文人から学べることは何だと思いますか？

・・・「戦争をしなかった」という点で、また、「自然の環境をよく理解して暮らしていた」という点では、縄文人の方が、現代の私たちよりはるかに優れているといえるかもしれませんね。

では、教科書を読み、縄文時代についてポイントを押さえましょう。

3. 織田信長

【願い】

- ①織田信長は「大うつけではない」ということを感動的に学んでほしい。
- ②授業後、長篠の戦いから信長の「すごさ：思考力、忍耐力など」を自ら追求するようになってほしい。

(起立、礼)

はい、今日はこれ。(信長の肖像画を見せる)
誰? そう、織田信長。

小学校で勉強しましたね。復習しましょう。
織田信長の若い頃のあだ名は?

「信ちゃん」(笑)

「大バカ」

おっ、鋭い。昔は「大バカ」のことを何と言っていたと思う?

「大うつけ」

そう、よく知ってたね。愚か者とか、大バカという意味ね。

で、信長は本当に大うつけだったの? (問)
どんなことから大うつけなんて言われているの?

「お父さんのお葬式の時に、へんなカッコウで来て、灰をまいた」

あっ、よく知ってるねー。詳しいねー、君。

では、今日は、信長は大うつけかどうか、今川義元との桶狭間の戦いを通して調べてみましょう。

君たちは、小学校で、桶狭間の戦い、信長はどうやって勝利したと習った?

・・・そうだね。山の上から信長が奇襲攻撃をして勝利したと習ったよね。(図を描いて、旧説を確認する)

ところが、最近の研究で、実は義元は、桶狭間山という見晴らしの良い山の上で昼食休憩をとっていたということがわかったんです。

ということは、信長は、昼間に、山の上にいる義元軍に気づかれずに近づき、奇襲攻撃をかけた。

(新説を図を描いて説明する)

どうやって気づかれずに近づくことができたんだろう? (1人で考える→4人班で予想)

班で出た予想を発表してください。

他の班の発表に質問や意見は?

・・・うーん、みんなの考え、独創的なんですけど違うんですねー。

ヒント「のぼり」。「のぼり」の絵を描いて説明する)

これを信長は用いて、2000人を義元のいる山のすぐ下まで移動させるんです。気づかれずに。

のぼりをどんな風に使うんでしょう? 誰か?

では、ビデオを見てみましょう。(12分)

『その時歴史が動いた「織田信長」 熱田神宮の出発から義元的首をとるところまで。』

義元本体の兵の数を少しずつ減らしていく。
そして、のぼりが遠くにあるからと油断させ、2000人で、雨で見通しが悪くなった時に、一気に山を駆け上がり、奇襲攻撃。

これで、3000人対2万5000人の戦い、絶対勝ち目がないと思われていた義元軍に勝つんですね。

信長は大うつけでしたか?

・・・では、どういう人物でしたか?

今、みなさんが言ってくれたように、大うつけではなく、忍耐強く、緻密で、かつ勇猛な行動がとれるということが、桶狭間の戦いから明らかになりましたね。

ところで、信長のその他の有名な戦い、知ってる?

「長篠の戦い」

長篠の戦いは、どうやって勝ったの?

「鉄砲隊」

おう、信長に関しては、詳しい人がいるねー。
でも、それが1番の理由ではないんだなー。
違うんだなー。(エッ?)

はい、今日はこれで終わりますよ。

(起立、礼)

(信長に関する本を数冊学級文庫に置いていく)

4. 豊臣秀吉

【願い】

- ①「何がこの男を天下人にしたのか？」を考えるなかで、豊臣秀吉という人物の「人間力」を学びとってほしい。
- ②「豊臣秀吉の最後」を調べようとするなかで、歴史への興味を深めてほしい。

(起立、礼)

はい、今日はこの人(秀吉の似顔絵)、誰？

「豊臣秀吉」

そう、「鳴かぬなら殺してしまえホトトギス」の秀吉ね。えっ、違う？じゃあ、何？

・・・秀吉は、「鳴かぬなら鳴かせてみせようホトトギス」ですか。

小学校で学んだのかなー。よく知ってるねー。

豊臣秀吉は、「家柄は低い、体は小さく弱い、顔は猿みたい」という、この時代にあっては、最悪の条件から天下人になった方ですからね。

やはり、「鳴かぬなら鳴かせてみせよう」という工夫・努力の句がありますね。

では、今日は、どうして条件が悪かった秀吉が天下人になれたのかを考えあいましょう。みなさん、信長は、美濃を落とすために、美濃の領地内にある墨俣という所に城をつくれと部下に命じます。

(地図を描いて、美濃と尾張と墨俣の位置関係を教える。木曾川の流れの方向も)

有力な武将である柴田勝家なども挑戦しますが失敗します。

そんななかで、まだ出世していなかった秀吉

が立候補するんです。

そして、成功するんです。「墨俣の一夜城」と言います。

まだ出世していないときですから、そんなにお金もない。部下もそんなにいない。

いったい、どうやってつくったと思います？

1人で考える→4人班で予想

班で出た予想を発表してください。

他の班の発表に質問や意見はありませんか？

・・・うーん、みんなの考え、面白いんですが、違うんですよー。

ヒントは、木曾川と「一夜」。

木曾川を使って、一晩でつくっちゃった。

どうやって？

・・・実際はどんなのかな？

ビデオを見てみましょう。

『NHK大河ドラマ「豊臣秀吉」』

秀吉と前田利家らが木曾山中へ行くところから、墨俣の一夜城を守りきるところまで。(12分)

秀吉は、「家柄は低い、体は小さく弱い、顔は猿みたい」という、この時代にあっては、最悪の条件からスタートして天下人になったのですが、そのなれた理由はなんだと思いましたか？

・・・今、みんなが言ってくれた「頭の柔らかさ」「明るさ」「ユーモア」「根気強さ」「イチかバチかにかける勇気」「親友をもっている」、そういうことが、秀吉の「すごさ」であり、だから天下人になれたのでしょうか。

ところで、秀吉の最後は、信長の本能寺の変みたいになるんですか？

・・・えっ、違う？幸せに亡くなった？うそー。

この時代に幸せに亡くなった武将なんている

の?ありえな一い!

今日はこれで終わります。(起立、礼)
(秀吉に関する本を数冊学級文庫に置いていく)

5. 徳川家康

【願い】

- ① どうして徳川家康は、260年間も続く江戸幕府を築きあげることができたのか? その「理由」を関ヶ原の合戦から見いだしてほしい。
- ② 信長、秀吉、家康の「すごさ」を今後も自ら追求してほしい。
歴史から学ぼうという意欲に火をつけたい。

(起立、礼)

今日はこの人(家康の似顔絵)、誰?

・・そう家康。この目からどんな人と予想する?

「一度つかんだら、離さない、みたいな感じの人」(ほおー)

では、この人は?(三成の似顔絵)

・・そう石田三成。三成の目からは、どんな人と予想する?

「なんか、キリキリした人みたい」(ほおー)

この二人の間で行われた天下分け目の戦いを何と言うか知ってます?

・・そう天下分け目の戦い「関ヶ原の合戦」ですね。

関ヶ原の合戦は、こんな感じで始まったんですよ。

(東軍と西軍の配置図を描いて説明する)

家康の東軍と三成の西軍、最初はどちらが有利だったと思う?

東軍と思う人、手を挙げて。

西軍と思う人、手を挙げて。

・・はい、実は西軍なんですよ。隊形が非常によかった。それに、家康が約束していた小早川秀秋という武将がねがえらなかったんです。

それで4時間たっても、家康の思うとおりに戦いが進まない。

そこで、家康はどうしたと思う?

・・実はね、前代未聞の中央突破を行うんです。

(家康本隊が中央突破していく様子を図を描いて説明する)

こんなことは信長や秀吉でもできなかった。どうして、家康は大將自らの大前進ができたんでしょう?

1人で考える→4人班で予想

班で出た予想を発表してください。

他の班の発表に質問や意見はありませんか?

・・うーん、「度胸が強い」とか、精神的なものだけじゃない。

家康は、弾があたっても俺は平気だという何かを持っていたんです。

何を持っていたのか?誰か?

「防弾チョッキ」

この時代にそれはあるの?

では、ビデオを見てみましょう。

『その時歴史が動いた「徳川家康」
関ヶ原の合戦の始まりから終わりまで。(10分)』

家康は、どうして南蛮甲冑を手に入れることができたの?

・・どうしてすぐに使わずにこの関ヶ原の合戦で用いたの?

「家康さすがだな」と思ったところは?

・・今、みんなが言ってくれた「普段の努力」「用意周到さ」「いざというときの行動力」「細

心であると同時に大胆」、そういうことが、家康の「すごさ」であり、だから260年も続く江戸幕府をつくることができたのでしょうか。

ところで、信長、秀吉、家康と、3人の武将を学んできましたが、あなたは、3人のなかで、誰が一番気に入りましたか？

そして、それは、どういうところですか？

今回は、その発表会をしましょう。

全員に発表してもらいます。1人3分。

なぜその人物なのか、必ず理由も発表してくださいね。

今日はこれで終わります。

次回、楽しみにしています。(起立、礼)

(家康に関する本を数冊学級文庫に加える)

6. 伊能忠敬

【願い】

伊能忠敬を学ぶなかで、以下の2つに気づき、勇気を持ってほしい。

①伊能が作りあげた地図は、平凡な人が50歳を過ぎてからコツコツコツコツ頑張って作り上げた傑作。

夢を持ち、根気強くコツコツ続けるとスゴイことができる！

②「凡人の持続力」が歴史に残る偉大なるものを作り上げた。

私たちの中にも、この「凡人の偉大なる力」があるのだ。

(起立、礼) はい、この人はだれ？(伊能の肖像画を見せる)

そうですね。伊能忠敬について何か知っていることありますか？

・・・この正確な地図を作った伊能忠敬のことがね、なんと心のノートに書いてあるんですよ。読んでみましょう。

「学問の志を抱いたのは50歳」と書いてあり

ますね。

当時の50歳というのは、今でいうと何歳くらいになるんでしょう？

「70歳」「いや、100歳」

はい、はっきりとはわかりませんが、この時代にあっては死が近い年齢ということは言えます。そんな年から学び始め、その後全国を測量してまわると書いてありますが、そんな高齢でどうやって全国を測量したんでしょう？江戸時代に車とかないしね・・・

「馬に乗って測量した」

「本当は若い人に測量させた」

じゃあ、ビデオ(堂々日本史)を見てみましょう。

- ・56歳から71歳まで全国を実際に歩いて測量した。
- ・歩幅は69センチきっかり。
- ・歩いた距離は3万4913キロ。

71歳まで歩いて測量したことがわかりましたが、足は悪くならなかったのでしょうか？高齢だからね。あと、目とかも。それに、きっと他にも困ったことあったらうね。

伊能にどんな困難があったと思う？

予想をノートに3つ以上書いてください。

・・・4人グループで発表しあって下さい。

・・・グループで出てきた予想を聞かせて下さい。

「やはり、足腰が悪くなったのではないかな。今みたいに運動靴はないだろうし。それに、コンビニもないわけだから、毎日の昼ご飯や水にも困っただろう」

はい、じゃあ、もう一度ビデオ(その時歴史が動いた)を見て、みんなの予想がどうあるかどうか確認しましょう。

- ・歯が抜け落ち、タクワンさえ食べることができない。

- ・体はガタガタ。
- ・そして、優秀な部下を亡くし、絶望。

しかし、伊能はこの絶望のなかから立ち上がり、世界を驚かす正確な日本地図を作り上げるんですね。

伊能は、決して天才ではない。

私たちと同じ平凡な人だと思います。

その平凡な人が50歳を過ぎてからコツコツコツコツ頑張って作り上げた傑作ですね。

「夢を持ち、根気強くコツコツ続けるとスゴイことができる！」(板書する)

「凡人の偉大なる力」を伊能は私たちに教えてくれています。

凡人の持続力が歴史に残る偉大なるものを作り上げるんです。

では、残りの時間で、この時代の文化を説明しましょう。

授業後、個人ノートに書かれた生徒の感想です。

「私が伊能忠敬の授業で一番びっくりしたのは、日本全国を歩いてまわって地図を作ったということです。

自分の体がボロボロになってもひたすら歩き続ける忠敬はとってもかっこいいと思います。伊能忠敬の授業で、人間、“やろう！”と思って一生懸命やれば、できないことはないんじゃないかなと思いました」

伊能の人生に感動し、伊能から勇気ももらっていることがわかります。

伊能の生き様を「かっこいい」と感じる感性を持っています。

この感性を子どもたちの間に是非広めたいも

のです。

ある社会学者は、『「努力すればナントカなる」社会から『努力してもしかなかったが』社会へ、そして『努力する気になれない』社会へ』移行していると指摘しています。

確かに、今の子どもたちをみていると、10代というのに、もうすべてあきらめてしまって、「努力する気になれない」という子もいるように感じます。

これではいけません。絶対にいけません。

努力することは大切なんです。

そして、どんな時代だって、真面目に努力していれば、必ず道は拓けるんです。

コツコツとした努力は、必ず花を咲かせるんです。

そのことを子どもたちに何としてでも伝えたい。

子どもたちに勇気を与えたい。

そのために、是非、「伊能忠敬」を授業で取りあげてください。

「伊能忠敬」の授業で、「努力への絶対的信頼」を子どもたちが持てるようにするのです。

7. 東郷平八郎

【願い】

「肉を切らせて骨を断った」日本海海戦の史実を学ぶなかで、東郷平八郎の「苦悩の深さ」「優れた決断力・実行力」「強い責任感」などを感動的に学んでほしい。

この学習を機会に、「わが国の先人の努力」にもっと関心を深めてもらいたい。

(起立、礼)

資料集〇〇ページを開いてください。(日露戦争前の世界情勢を風刺した絵)

さて、これは何戦争のおこる前を表したもの

だろう？

・・・うん、日露戦争前と書いてあるね。

で、どうしてロシアは「大男」なのに、日本は「少年」に描かれているのだろうか？

「日本は弱いと思われていたから。大人と子どもの戦いみたいに思われてた」

なるほど。世界からはそう思われていたのでしょうね。

で、結果はどうだったの？

「日本が勝った」

はい、なんと日本が勝つんだよねー。そう小學校で習ってきたよねー。

で、ど、どうやって勝ったの？

「・・・・・・・・」

えっ、誰も説明できないの？

そうかー・・・じゃあ、この人（乃木希典の写真）。誰？

乃木希典という陸軍の司令官です。

ロシア軍はね、日本なんて子どもみたいなもので、簡単に降伏させれると思ってたの。

ところが、どっこい。日本が降参しない。

ねばるんです。ねばってねばって、乃木らは戦うんです。

ロシアはあせる、あせる。

そして、ロシアはとうとうバルチック艦隊をウラジオストックに送ることにするんです。ウラジオストックを基地にして、日本の輸送路を断とうという作戦です。

（地図を描きながら説明）

輸送路を断たれて、武器や食糧が補充できなくなれば、さすがの乃木でも、確かに降参するしかなくなるよね。

だから、日本としては、なんとかこのバルチック艦隊を食い止めなくてはならない。

そこで、日本の命運をたくされたのがこの方、ジャジャン。（東郷平八郎の写真）誰？

・・・うーん、知らないよね。教科書にも載ってないからね。無理ないね。

東郷平八郎といいます。海軍の司令長官です。東郷平八郎率いる日本連合艦隊で、当時世界最強といわれたバルチック艦隊を打ち破れというんですよ。それしかないと。

それに失敗すると、この戦い、日本の負けだと。

困ったねー。困ったもんだねー。

だいたい、バルチック艦隊がどのルートを通ってウラジオストックに入るかがわからない。日本海を通るのか？太平洋から来るのか？

見逃して、ウラジオストックに入られたら、もう終わりだからねー。

ルートを見極め、対馬海峡で待つか、津軽海峡で待つか決めなければならない。

さて、みんな、みんなだったら、どのルートで来ると思う？

全員に聞きます。

日本海を通ると思う人？

太平洋と思う人？

日本海の人、どうしてそう思ったの？

「だって、近いでしょ。ロシアから来てるんだから燃料もそんなにないでしょう」

太平洋の人は、なぜ？

「常識では日本海。ロシアはその裏をかいて、こっそりウラジオストックに入るのです。ロシアは燃料なんかケチらないのです。ロシアをなめてはいけません」(笑)

はっはっはっ、そうか。鋭く予想するなー。

東郷をはじめ、当時の海軍幹部も大激論だよ。そして、迷いに迷ってね、東郷は、日本海説をとり、対馬海峡で待つことにするんです。

燃料のことだとか、津軽海峡は切りが深くて、大艦隊での航行は難しいだろうと考えて、日本海説をとったと言われます。

す、すると、「裏をかかれた」笑)、あ、いや、来たんです。

東郷の予想があたったんです。よかったねー。

よかったあ。

ルートはあてたんだけど、ここからがまた大変。

バルチック艦隊は当時世界最強。12インチ砲という大砲が26もある。

対する日本には16しかない。

まともに戦ったら負けるんですよ。

普通に戦えば負ける。さあ、君ならどう戦う？

以前、勉強した、豊臣水軍とイスンシンの戦いの時のように、何隻かがおとりになって、複雑な地形の所におびき寄せる、なんてことはできないよ。

広い日本海で戦うんだからね。

さあ、君ならどう戦う？

ノートに考えを書いてください。(5分)

4人グループで発表→全体場で発表。質疑・意見交換

(その作戦で、世界最強のバルチック艦隊に勝てるかなー?)

では、実際の日本海海戦を見てみましょうね。「その時歴史が動いた」です。

・明治38年5月27日6時55分、バルチック艦隊北上してくる。
日本連合艦隊、沖の島目指し急行。
13時39分、バルチック艦隊捉える。

・13時55分。
三笠のマストにZ旗(皇国の興廃この一戦にあり・・・)あがる。

・14時02分。1万メートルに近づく。
・9500メートル。
これ以上近づくと、ターンの間、一方的に攻撃される。
・9000メートル。
なおも、東郷の手は動かない。

・もはや8000メートル。

5月27日2時05分、東郷の右手が上がり、左へ曲がる。

旗艦三笠、左へ150度の急展開。

東郷ターンの瞬間である。

・バルチック艦隊は驚き、かつ喜ぶ。

三笠に集中攻撃。

三笠300発以上の砲弾をあびるが、奇跡的に当たらず。

・部下から「危ないから艦内に」と言われるが、東郷はデッキを離れない。

14時08分、150度のターンを終え、T字戦法開始。

14時10分、初弾、発射。

一斉に、先頭の旗艦を狙う。

・バルチック艦隊、先頭の旗艦が叩かれ、大混乱。

戦艦8隻含む27隻が沈没。

または、降伏。

逃げ延びたのは3隻だけ。

・日本海の制海権を守って、日露戦争の勝利を確かなものにした。

・19時20分、東郷、初めてデッキを離れる。
東郷の足跡だけが波しぶきにぬれず、白く残っていた。

はい、東郷はどんな戦法をとっていましたか？

「東郷ターン」

「T字戦法」

そうでしたね、ギリギリまで近づいて、相手に逃げられないようにして、そこで急にUターンする。

そして、T字の形をつくり、みんなで、一斉にバルチック艦隊の先頭を狙う。

先頭の旗艦に総司令官がいるだろうから、そ

こを叩けば、勝てるかと判断したんだね。

いやー、すごいねー。

Uターンしている間は打たれっぱなし。イチかバチかだよな。

まさに、肉を切らせて骨を断つ、という作戦です。

このビデオでは、日本連合艦隊の勝因は、この作戦だと読み取れますが、これ以外にも、

- ・秋山なんとかという優れた作戦参謀がいた
- ・すごい威力のある火薬を開発した日本人がいた
- ・当日の天気が日本に有利だった
- ・イギリスがなんかこっそりロシアに意地悪してた

なんていうのも関係しているみたいです。

今、テレビで「坂の上の雲」ってやってるでしょ。

あれ見ると、もっと深く勝因がわかるかもしれませんね。

では、日露戦争についての説明を教科書で読んでみましょう。

8. 野口英世

【願い】

野口英世を学ぶなかで、次の二つに気付いてほしい。

- ①本気であれば、道は必ず拓ける。
- ②人の嫌がることのなかに自分を大きくするチャンスがある。

(起立、礼)

さっ、前回の復習です。

今日は、苗字じゃなくて、名前のあいうえお順に並んでください。

(2人組をつくる)

①手あて (1回)

②微笑み (2回)

③うなずき (自己紹介しながら。2人組で。1人3分)

自己紹介は「～が好きな～出身の～です。わが故郷の有名人といえば・・・」

④故郷の有名人を紹介 (その場で)

・・・福島県出身者がいないんだけど、福島県と言えば、有名人、だれか知ってる？

ヒント、この人 (野口英世の写真を見せる)

そう、野口英世。野口英世で知ってることは？

「黄熱病の研究って書いてある」

そうだね、教科書にはそれだけだね。ほか、何か知らない？

「小さい頃、やけどをした」

おう、そうです。赤ちゃんの時、囲炉裏に落ちてやけどをしてしまって、指がくっついてしまうんですね。

そのことで、でくのぼう (操り人形、役に立たない人) と言われ、小さいころからずーといじめられるんです。

小学生の時、そのことを作文に書き、発表します。

その作文を聞いてね、先生方や周りの方が募金をしてくれて、手術を受けることができるようになります。手術は成功。指が動くようになるんです。

英世はもう感動してねー、そして俺も医者になると決意し、猛勉強するんです。

そして、超難関なお医者さんの試験に見事合格。

しかし、・・・ほら、指は動くようになったんだけど、メスを自由に操れないということで、医師として不適格とされるんです。

カアっ、もう英世は、ふてくされます。心が荒れちゃうのね。

こんなに努力したのに。やっぱり指のせいで、母ちゃんが悪い、と。

それを見て、お母さんは、ただただ涙。私が悪かったと涙を流します。

しかし、このお母さんの涙を見て、考え直すのです。

確かに俺は、メスを持ってないけど、シリンダーなら持てるぞ。

細菌学なら、俺にもできるぞ、と。

そして、細菌学を研究することを志ぎすのです。

ところで、教科書には「黄熱病」しか書いてないけど、彼が有名になったきっかけは黄熱病じゃないんだ。

英世が有名になったきっかけを知っている人いますか？

・・・いないよね。じゃあ、ビデオを見てみましょう。

英世が有名になったきっかけを見てくださいね。

【映画「遠き落日」より】

帰りの船賃無しでアメリカに渡り、助手にしてくださいと頼む所から、毒蛇の所まで

- ・英世は行きの船賃だけで、アメリカ・ペンシルバニア大学のフレクスナー教授のもとへ行き、助手にしてくださいと一方的に頼む。
- ・フレクスナー教授は、「そんな約束はした覚えがない」と断るが、英世は何度も食い下がる。「旅費がないので帰れません。助手にしてください」と。
- ・すると、フレクスナー教授が、「君、毒ヘビを扱えるかね？」と突然尋ねる。英世は、そんな経験はなかったが、とにかく、「は、はい、できます」と答える。
- ・「毒ヘビの血清を開発中なんだが、今いる助手が嫌うんだ。扱えるかどうか試してみよ

う。よく注意して・・・よかろう。助手にしよう」

英世は、恐る恐るであったが、なんとか毒ヘビを扱うことができた。

- ・その後、英世は毒ヘビの研究でめざましい成果をあげる。その功績でニューヨークのロックフェラー研究所に招かれることになる。

どうでしたか？英世が有名になるきっかけは何でしたか？

「毒ヘビ」

そう、英世は、毒ヘビ研究から有名になるんですね。

この野口英世の事実で、「～は大切だな」と感じたことはありましたか？

2人組で5分間、自由に語りあってください。

・・・出てきた意見を聴かせてください。

「海外に帰りの船賃無しで行くイチかバチかの度胸がスゴイと思いました。

人間、度胸が大切と思いました」

「断れても何度も何度も助手にしてくださいと頼んだところがスゴイ。

ほくならすぐにあきらめていただろう。執念が大切と思った」

・・・なるほど、そうだよー。

先生はね、〇〇君や△△君と同じで、特に、次の2つを英世から学びました。

- ①本気であれば、道は必ず拓ける。
- ②人の嫌がること、避けることのなかにチャンスがある。
(大きく板書する)

「俺は絶対これをやるんだ。これをやらざるをえないんだ！」という本気さは、必ず道を切り拓くのですね。

そういう本気の人には、必ずどこからか手が差しのべられるのですね。

そして、人が嫌がること、人が避けることのなかに自分を育てる大きなチャンスがあるんですね。

うん、先生の場合、この2つを学ばされました。

はい、では、残りの時間で教科書の「近代文化の形成」のところを読んでいきましょう。

解説します。

見て学び、読んで学び、やって学ぶ。

これが、教師の授業力を高めるための学びである。

校内研修会を企画し、お互いの授業を見せ合い、学び合おう。研究会や研究授業発表会に積極的に参加しよう。優れた実践家がいると聞けば、最大限の努力をして、自分の目で見、その授業を体感して、彼の「よさ」を学び取ろう。

教育雑誌には毎月必ず目を通し、研究者や実践家の単著も月に2～3冊は読もう。教育に関する情報を自ら意欲的・継続的に集めよう。

そして、見て学び、読んで学んだものを自分自身で咀嚼し、おもいっきりやってみよう。研究授業でなくてもいい。平凡な日の普通の授業で、一人で、怖れずに、喜々とチャレンジしよう。やってみて、「どこはよかったのか」「どこを改善しなければいけないのか」子どもから学ぼう。子どもの声や目から、謙虚に学び取ろう。

見て学び、読んで学び、やって学ぶ。この一連の学びのなかで、教師の授業力は確かに磨き高められていく。